

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970101927	
法人名	社会福祉法人緑栄会	
事業所名	グループホームわかば	
所在地	山梨県甲府市古上条町163-1	
自己評価作成日	令和3年1月13日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和3年2月2日(火)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

創設者が歯科医師であるため、「口腔ケア」に取り組み、入居者が「食事を美味しく、楽しく、ゆったりと味わえるよう」口腔機能を維持し、ひいては自立や生活の質の向上を図るようにしている。看護師を配置し(常勤2名)、健康管理面において健康維持と異常の早期発見と対処に努めている。生活保護受給者など経済困窮ケースや虐待ケースなど、すぐにでも対応しなければならないことの援助を率先して行っている。ご本人を尊重しつつ、家族のような親しみのある関係作りに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は甲府市郊外の住宅地に位置し、2階建て2ユニットの建物である。同じ法人が運営するデイサービスセンターが隣接し、災害や日常的なケアにおいても協力関係が築かれている。創設者が歯科医師であるため「口腔ケア」の実践により利用者の口腔機能を維持し、食事や生活の質の向上を図るよう取り組んでいる。法人の理念を礎として、職員全員が「笑」を忘れないケアを実践することで、利用者や家族が安心して生活できる場を提供している。面会や外出に制限がある中、月1回「わかばグループ便り」を発行し、事業所の情報や利用者の生活の様子を家族に伝えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている 現状は(参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度(コロナ禍以前) 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている 現状は(参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが(コロナ禍以前) 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームわかば**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(わかば)	ユニット名(さくら)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホール内に基本理念を掲示している。また、新人オリエンテーションの時、基本理念の大切さを学んでいる。	ホール内に基本理念を掲示している。また、新人オリエンテーションの時、基本理念の大切さを学んでいる。	法人理念「尊厳のある介護、笑顔のある介護、自立のある介護、信頼のある介護」を基に、グループホーム独自で「笑」を掲げ、利用者や家族、職員が常に笑顔でいられるケアや環境づくりに取り組んでいる。事務所やホール内に理念を掲示し、入職時研修や職員研修でも理念の意識づけに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流は日常的ではないが学生の慰問などを行っている。また、近所にある中学校のグラウンド開放日には、散歩に行き、地域住民とコミュニケーションを行う。	地域との交流は日常的ではないが学生の慰問などを行っている。また、近所にある中学校のグラウンド開放日には、散歩に行き、地域住民とコミュニケーションを行う。	小中学生や園児、一般ボランティアと交流する機会が多い。自治会の一員として防災訓練や中学校の校庭開放日に行われたバターゴルフに参加した。現在はボランティア等の受け入れは困難だが、近隣の住民から果物を頂いたり、中学生から花をプレゼントされる等暖かい交流は継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の衣料品店やスーパーに買物に行き理解を呼びかけている。また、散歩中、近隣の住民の庭に成っている花や果物など頂くこともある。	近所の衣料品店やスーパーに買物に行き理解を呼びかけている。また、散歩中、近隣の住民の庭に成っている花や果物など頂くこともある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎に開催し、ホームの状況報告を行っている。	2か月毎に開催し、ホームの状況報告を行っている。	2か月に1回開催しているが、現在は書面会議に変更している。事業所の状況報告や出席者からの意見を集約し、フィードバックしている。最近ではコロナ対策に関して意見交換した。民生委員、地域包括センター職員、他の事業所の施設長から地域の情報や助言を受けて事業所の運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の際に地域包括職員や民生委員が窓口となり、情報交換を行っている。	運営推進会議の際に地域包括職員や民生委員が窓口となり、情報交換を行っている。	運営推進会議の議事録を送付し事業所の状況を伝えたり、利用者の福祉制度利用に関して相談する等市の介護及び福祉関係課の担当者と直接情報交換している。市担当者、民生委員、地域包括支援センター職員等とも連携し、協力体制がとれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。日中は玄関の施錠は行っていない。居室の鍵は設置していない。	身体拘束は行っていない。日中は玄関の施錠は行っていない。居室の鍵は設置していない。	日中は玄関の施錠は行わず、見守りによるケアを実践している。月1回、身体拘束虐待防止委員会を開催している。職員研修は防止に関する2〜3分の動画を活用し、全職員が空き時間に研修できる方法を取っている。また、「言い換え事例」を配布し、日頃のケアに活用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、副施設長、介護主任が常に現場に目を光らせ指導研修を行っている。	管理者、副施設長、介護主任が常に現場に目を光らせ指導研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修など活用し、権利擁護に関することを現場に周知している。	外部研修など活用し、権利擁護に関することを現場に周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談の段階からご本人やご家族の意向や要望を取り入れて対応している	入居相談の段階からご本人やご家族の意向や要望を取り入れて対応している		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームわかば**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(わかば)	ユニット名(さくら)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご本人・ご家族の要望をその都度取り入れ職員全員に統一したサービスを行うように努めている。	ご本人・ご家族の要望をその都度取り入れ職員全員に統一したサービスを行うように努めている。	意見箱を設置している。主に運営推進会議や面会時に要望や意見を聴くようにしている。現在家族等の面会は制限しているので、携帯の動画を使って玄関先でご本人の様子を見て頂いたり、利用者にもご家族の様子を見て頂くようにしている。家族の心配事や意見にはその都度対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時ミーティングを行い意見交換を行い業務に反映させている	随時ミーティングを行い意見交換を行い業務に反映させている	朝礼、夕礼時に職員間の情報交換や共有をしている。管理者は常に職員の意見や要望、ケアの状況等を把握し、日常的に対応している。年1回、職員から自由記述による手紙を受け取り管理者からフィードバックする方法でヒアリングを実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回理事長に直接意見交換できる場を実施している。 勤務態度や資格に応じての正規職員への登用制度を行っている	年1回理事長に直接意見交換できる場を実施している。 勤務態度や資格に応じての正規職員への登用制度を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外へは可能な限り研修や講習会へ参加させている	施設外へは可能な限り研修や講習会へ参加させている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター主催の学習会へ参加している。	地域包括支援センター主催の学習会へ参加している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご自宅や施設を訪問し要望を聞いている	入居前にご自宅や施設を訪問し要望を聞いている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご自宅や施設を訪問し要望を聞いている	入居前にご自宅や施設を訪問し要望を聞いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問調査を行い、入居後の状態をアセスメントしている	訪問調査を行い、入居後の状態をアセスメントしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	なるべく家族の関係が薄くならないように最低でも月に一度は面会を依頼し実施している	なるべく家族の関係が薄くならないように最低でも月に一度は面会を依頼し実施している		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームわかば**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(わかば)	ユニット名(さくら)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	ご家族によっては遠方に住んでいるご家族もい るのでご本人の気持ちを聞きながら手紙を代筆して いる	ご家族によっては遠方に住んでいるご家族もい るのでご本人の気持ちを聞きながら手紙を代筆して いる		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	基本的に面会は自由に行っていたいっている。	基本的に面会は自由に行っていたいっている。	自宅の草取り、知人との外食、美容院に行く等馴染みの 関係を継続していたが、現在は外出自粛により今までの ように出来ない事も多い。電話を使うなど、状況に応じて 対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	毎日利用者様同士が関わられるようにラジオ体操や レクリエーション等で交流を図っている	毎日利用者様同士が関わられるようにラジオ体操や レクリエーション等で交流を図っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて電話での相談や助言を行っている	必要に応じて電話での相談や助言を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	一人一人に担当をつけてご本人の要望を聞いてい る。ご本人からの要望や訴えが少ないもしくは困難 な場合は、ご家族や関係者からの情報を聴取して いる	一人一人に担当をつけてご本人の要望を聞いてい る。ご本人からの要望や訴えが少ないもしくは困難 な場合は、ご家族や関係者からの情報を聴取して いる	職員は担当制で、日々の生活の中で利用者の体調や意 向を把握し、引き継ぎノートで共有している。内容によ っては、ケア会議で協議しプランに反映している。また、訴 えが困難な場合は本人の表情や態度から代弁したり、 家族へのハガキや関係者からの情報を参考にして判断 し、ケアに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	入居前にご自宅や施設を訪問し生活状況や趣味・ 嗜好を聞いてサービスに活かしている	入居前にご自宅や施設を訪問し生活状況や趣味・ 嗜好を聞いてサービスに活かしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	入居前に状況を調査に行き、アセスメントを行っ ている。家事や掃除、洗濯たたみなど日常生活動作 の中から現状をみて行く様に努めている	入居前に状況を調査に行き、アセスメントを行っ ている。家事や掃除、洗濯たたみなど日常生活動作 の中から現状をみて行く様に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	ご本人やご家族の要望を聞き、モニタリング・カン ファレンスを実施し介護計画の修正を行っている	ご本人やご家族の要望を聞き、モニタリング・カン ファレンスを実施し介護計画の修正を行っている	入居時のアセスメントを基に介護計画を作成し、2週間 経過後観察している。安定している場合は継続し、3か 月から6か月でモニタリングしている。変更ある時は、本 人、家族、関係者に説明して介護計画を修正している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録への記載と共に引き継ぎノートを活用し 情報の共有を行い見直しに役立てている	個別記録への記載と共に引き継ぎノートを活用し 情報の共有を行い見直しに役立てている		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームわかば**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(わかば)	ユニット名(さくら)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望に沿ってその都度サービスを柔軟に対応している。ご家族が病院受診が困難な方については、往診の導入。	ご本人やご家族の要望に沿ってその都度サービスを柔軟に対応している。ご家族が病院受診が困難な方については、往診の導入。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の商店や医院に協力得ながらご本人が快適に生活し、今出来ることは行っていただいている	近所の商店や医院に協力得ながらご本人が快適に生活し、今出来ることは行っていただいている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診日にご家族へ協力を得て受診を進めている。看護師が主治医との連絡を行いながら健康管理に努めている。	定期受診日にご家族へ協力を得て受診を進めている。看護師が主治医との連絡を行いながら健康管理に努めている。	全体の四分の三の利用者が往診医を主治医としている。他の利用者は家族や職員の送迎で定期受診をしている。事業所の看護師と往診医の連携も良く、十分な健康管理ができています。また、隣接の歯科医を定期的受診し、口腔ケアにも力を入れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師を2名配置し、情報ノートなどを活用しながら連携をとっている。体調不良の利用者が出た場合は24時間の連絡体制をとっている。また、希望される方には看取りもおこなっている。	常勤の看護師を2名配置し、情報ノートなどを活用しながら連携をとっている。体調不良の利用者が出た場合は24時間の連絡体制をとっている。また、希望される方には看取りもおこなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	管理者、副施設長が入院時の病院のスタッフと連絡を取り支援している	管理者、副施設長が入院時の病院のスタッフと連絡を取り支援している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者、副施設長が中心となり、看取りに向けた体制づくり(家族の意向、主治医の意見、現場職員への方針の統一)を整えている。	管理者、副施設長が中心となり、看取りに向けた体制づくり(家族の意向、主治医の意見、現場職員への方針の統一)を整えている。	入居時に重度化や終末期について説明している。その時の状況に応じて、家族や関係者の意向や助言を受けて方針を決めている。看取りに関する職員研修は年1回実施し、初めての対応も含めて職員体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護職員が中心となって、初期対応の指導をおこなっている。緊急時対応マニュアルがある。	看護職員が中心となって、初期対応の指導をおこなっている。緊急時対応マニュアルがある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を実施している。また、火災や災害時は地域住民に協力をして頂いている。(地域住民、地域包括職員の参加)また、年1回自治会の防災訓練に職員が参加している。	年に2回防災訓練を実施している。また、火災や災害時は地域住民に協力をして頂いている。(地域住民、地域包括職員の参加)また、年1回自治会の防災訓練に職員が参加している。	年2回、避難訓練を実施している。火災、地震、水害、夜間を想定し、訓練時は地域住民や地域包括支援センター職員の協力も得ている。また、自治会の防災訓練に職員が参加し、訓練の状況を把握している。2階ユニットはエレベーターで避難するが使用できない場合の対策も協議している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	学習会や指導は実施している。もし職員がプライバシーを損ねる言葉かけがみられた時には、厳しく指導対応処分している。	学習会や指導は実施している。もし職員がプライバシーを損ねる言葉かけがみられた時には、厳しく指導対応処分している。	年1回、学習会を行い職員の意識向上やケア方法を共有している。排泄、入浴等では希望に応じて同性介護で行う。特に、利用者に対する言葉かけや対応に重点を置き、相手を傷つけないようなケアを共有し、実践に繋げている。	

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームわかば**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(わかば)	ユニット名(さくら)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各利用者様に担当職員を決めて意見や要望を聴取するようにしている	各利用者様に担当職員を決めて意見や要望を聴取するようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状態に応じて対応している	状態に応じて対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望により美容や女性化粧や整髪(三つ編みなど)を行って	希望により美容や女性化粧や整髪(三つ編みなど)を行って		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ADLが自立に近い方は配膳や下膳を行っている。誕生日会の際は、利用者様の好きな食事を提供している	ADLが自立に近い方は配膳や下膳を行っている。誕生日会の際は、利用者様の好きな食事を提供している	食材は業者から仕入れ、調理は事業所内で行っている。調理の手伝い、配膳、下膳等を出来る利用者は職員と共に行っている。季節の献立やおやつ作りは利用者も参加して調理し、楽しみとなっている。また、誕生日会では利用者様の好きな食事を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者様の主治医の指示の基に提供している	各利用者様の主治医の指示の基に提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを実施。異常時は隣接してる創設者の歯科医院へ受診している	毎食後歯磨きを実施。異常時は隣接してる創設者の歯科医院へ受診している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をつけ取り組んでいる。主治医の指示のもと看護師が洗腸対応も行っている。	排泄記録をつけ取り組んでいる。主治医の指示のもと看護師が洗腸対応も行っている。	排泄記録表を付けながら、一人ひとりのリズムを把握し、トイレでの排泄ができるように支援している。看護師がいるので、医師の指示がある場合は洗腸等の対応もしている。夜間はオムツ使用の場合もあるが、出来るだけトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動を行ったり、水分量の調整、便秘薬の調整などを行っている	運動を行ったり、水分量の調整、便秘薬の調整などを行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の要望やペースにて一人ずつ入浴していただいている。また、身体状況など検討し機械浴も使用する。	利用者様の要望やペースにて一人ずつ入浴していただいている。また、身体状況など検討し機械浴も使用する。	一人の方が週2~3回程度入浴している。シャンプーや化粧水等好みの物を使う方もいる。入浴を拒否することなく、全員がゆったりと入浴を楽しんでいる。同性介護を希望される場合はその都度対応している。	

自己評価および外部評価結果		事業所名 グループホームわかば				
自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(わかば)	ユニット名(さくら)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の要望やベースにて一人ずつ休息していただいている。	利用者様の要望やベースにて一人ずつ休息していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が中心となり、主治医の処方した薬剤の説明書を参考に不明な事は薬局の薬剤師へ相談している	看護師が中心となり、主治医の処方した薬剤の説明書を参考に不明な事は薬局の薬剤師へ相談している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメント表や近況をスタッフ間で情報交換し取り入れ支援している	アセスメント表や近況をスタッフ間で情報交換し取り入れ支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所への散歩や買い物。季節ごとに外出を図っている	近所への散歩や買い物。季節ごとに外出を図っている	近所への買い物や季節の外出をはじめ事業所周辺の散歩など、利用者の要望に応じた外出の機会がある。現在は外出自粛の制限がある為、小人数で車の窓から花見を楽しんだり事業所周辺の散歩をして気分転換している。	
50		○お金の所持や使うこと等の支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に利用者様がお金を持つことはしていない	基本的に利用者様がお金を持つことはしていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	職員が介助し、ご家族・友人への電話を支援してる	職員が介助し、ご家族・友人への電話を支援してる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員が介助し、壁に季節感があじわえる様に支援してる	職員が介助し、壁に季節感があじわえる様に支援してる	事業所内には季節感ある制作や装飾が掲示され利用者や来訪者の目を楽しませている。室内は明るく、フロアは広々としてソファも配置されている。1ユニットに6か所のトイレがあり、1か所は車椅子対応になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを設置している。利用者様の希望や性格、性別などを判断し、席を決めている。	フロアにソファを設置している。利用者様の希望や性格、性別などを判断し、席を決めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく自宅の自室に近い環境で生活できるように身の回りの物を持ち込んでいただいている	なるべく自宅の自室に近い環境で生活できるように身の回りの物を持ち込んでいただいている	全室が和室仕様で2畳分の畳が敷いてあり、窓には障子が入っている。ベッド、エアコン、クローゼット、洗面台は備え付けである。ベッドでなく布団を敷いたり、障子でなくカーテンの方もいて個々の好みに沿っている。写真、盆栽、仏壇、こたつ等利用者にとって思い入れのある品が持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室や廊下に手すりを設置。キッチンにはIH対応。	各居室や廊下に手すりを設置。キッチンにはIH対応。		